

世界文化遺産 富士山の切手

富士山が世界文化遺産に指定された。自然遺産でなく文化遺産ということである。富士山はサクラの花について多く切手に描かれている。当然、世界遺産シリーズ切手として10種が発行されるであろう。その前に富士山がこれまでにどのように切手に描かれてきたのかを整理してみた。

富士と桜
これぞ日本の切手 160種の切手に富士山はなんらかの形で描かれている(普通27、航空9、年賀1、特殊74、ふるさと38種)。しかし、描かれ方が非常に変化に富んでいる。まず、全体でも、部分でも富士山を描いた絵画は59種も切手になっている。そのうち54種は浮世絵である。北斎・富嶽三十六景の17の絵が33種の切手に、広重・五十三次、江戸名所の富士山が描かれた17の絵が18種の切手に使用されている。しかし、これら浮世絵のうち山として富士山を主題にしたものは、北斎の山下白雨(切手6種)、凱風快晴・赤富士(切手4種)ぐらいで、他は富士山が背景になった浮世絵である。対して、他の絵画は横山大観の霊峰飛鶴のように富士山を大きく主題に描いたものが多い。



この富士山が背景として多く描かれることは残り100種の切手についてもいえることである。富士山の景観を大きく描いた切手は国立公園、JAPAN WEEK、山岳シリーズなどに20種程度にとどまり、他は背景に富士山を描いたもの、デザインの一部に富士山を配置したものである。この点をふるさと切手にみると富士山からの距離に比例して富士山の扱い方に違いがみられる。お膝元の山梨14、静岡8、そして神奈川5、東京2(江戸名所と粋の浮世絵切手除く)の順に富士山が描かれた切手が発行されており、切手に占める富士山



山梨県 静岡県 神奈川県 東京都

の大きさも同じく距離に比例して小さくなっている。

次に、デザイン化した富士山は富士鹿、震災切手など33枚の切手に見られる。その中で特徴的なのは北斎の赤富士のように縦長にデフォルメされた大仏航空のような切手が多いようである。頂上だけ、頂上の無い、コインの中の富士山もある。



縦長にデフォルメされた富士



富士山 山頂 山頂のない富士山

1964年 IMF 総会記念切手 COIN に富士山

発行目的の点から整理すると、郷土のランドマーク表現は当然として、国際観光年、国際文通、航空切手等のように日本のシンボルとして描かれているものが多い。160種のうち57種は国際的事項に関連した切手である。この点を国際的な事項の切手に用いられることの多い浮世絵切手でみても、浮世絵切手218種のうち富士山が描かれた浮世絵切手55種の65%は国際的事項の切手であるのに、富士山のない浮世絵切手164種では37%で、富士山が描かれた浮世絵が意図的に国際的な事項の切手に用いられているかと考える。



山梨県ふるさと切手 富士講の巡礼地 忍野八海

このように、富士山を描いた切手からは山岳信仰の対象としての文化遺産を感じさせるものはない。強いて言えば、富士講が背景にあるであろう北斎の富嶽三十六景切手の多さ、また富士講の富士八海と称された巡礼地の忍野八海の切手ぐらい、いや、富士山の切手自体が多いということであろうか。この点からも近く発行される切手がどのように文化遺産と感ずるものになるか楽しみである。(編集子)

この号の最終校正を進めていた5月初旬、世界遺産シリーズ〈第7集〉「富士山—信仰の対象と芸術の源泉」の発行が発表された。文化遺産らしい切手が見当たらないと感じざる得ない富士の四季の風景等の10集である。